

平成28年度 妙高市算数部 活動報告

部長 磯部 仁

1 研究主題

社会や生活との関連を実感させる算数・数学の授業づくり

2 活動の概要

妙高市学校教育の重点に「今の学びを将来につなげるキャリア教育の推進」が掲げられ、学校における教科学習が社会や将来の夢と密接に関わっていることを学習者に実感させることが私たち教師に求められている。

算数・数学を学んで得た力を社会とつなげ、活かしていく子どもの育成を目指し、講演、授業研究、協議を行い、授業改善の視点と授業実践の意欲をもつことができた。

3 研究の実際

(1) 講演(8月19日、新井総合コミュニティセンター)

○講師 妙高市教育委員会こども教育課指導主事 遠藤和英 様
テーマ「社会や生活との関連を実感させる算数・数学の授業づくり」

○講演の骨子

① 今までの算数・数学授業の問題点

② 目指すべき授業

ア 「結果よりも過程」を意識させる授業

イ 大切なのは「問題の工夫」

③ 演習「よい問題づくり」

意外性のある問題、解法がいくつもある問題、生活に密着している問題、適度の抵抗感のある問題、試行錯誤できる問題、実物を提示できる問題など

④ 例示(小6「資料の整理」より)

⑤ 教師に必要な力・・・「授業観」「教材研究する力」「学習指導する力」「人間性」



(2) 公開授業、授業研究協議会(11月8日、新井中学校 2年6組)

○授業者 新井中学校 神田聖一教諭

○公開授業 2年数学「図形の性質の調べ方」

①授業の実際

はじめに、身の回りにある敷き詰め模様を画像パネルにして提示した。

次に、鋭角三角形・鈍角三角形・四角形・凹四角形・正五角形のタイルを5～6名のグループに渡し、敷き詰めができるか確かめる操作活動を行わせた。そして、敷き詰めができる理由を小グループで考えさせ、学級全体に発表させ、考えを共有した。

②授業協議会

小グループでワークショップ形式の協議を行った。「操作活動が思考する上で効果的だった。」「グループ活動は役割やルールを決めると良い。」「ホワイトボードを利用するなど発表方法を工夫するとよい。」という感想や意見が出された。



4 成果と課題

夏の研修会では、遠藤和英様から、児童生徒が自分の問題として捉える「よい問題」の条件についてご指導いただいた。また、秋の研修会では、新井中学校数学部の全面的な協力のもと、日常生活と数学の関連を意識し、小中のつながりや操作活動を大切にした数学の授業を提案していただいた。

社会や生活との関連を少し意識することにより、導入場面や問題を工夫できると感じた。日常の算数・数学の授業改善の視点を得て、明日からの授業実践への意欲が高まった。